

15

ナルニア国物語 2

ライオンと魔女と衣装だんす

C・S・ルイス

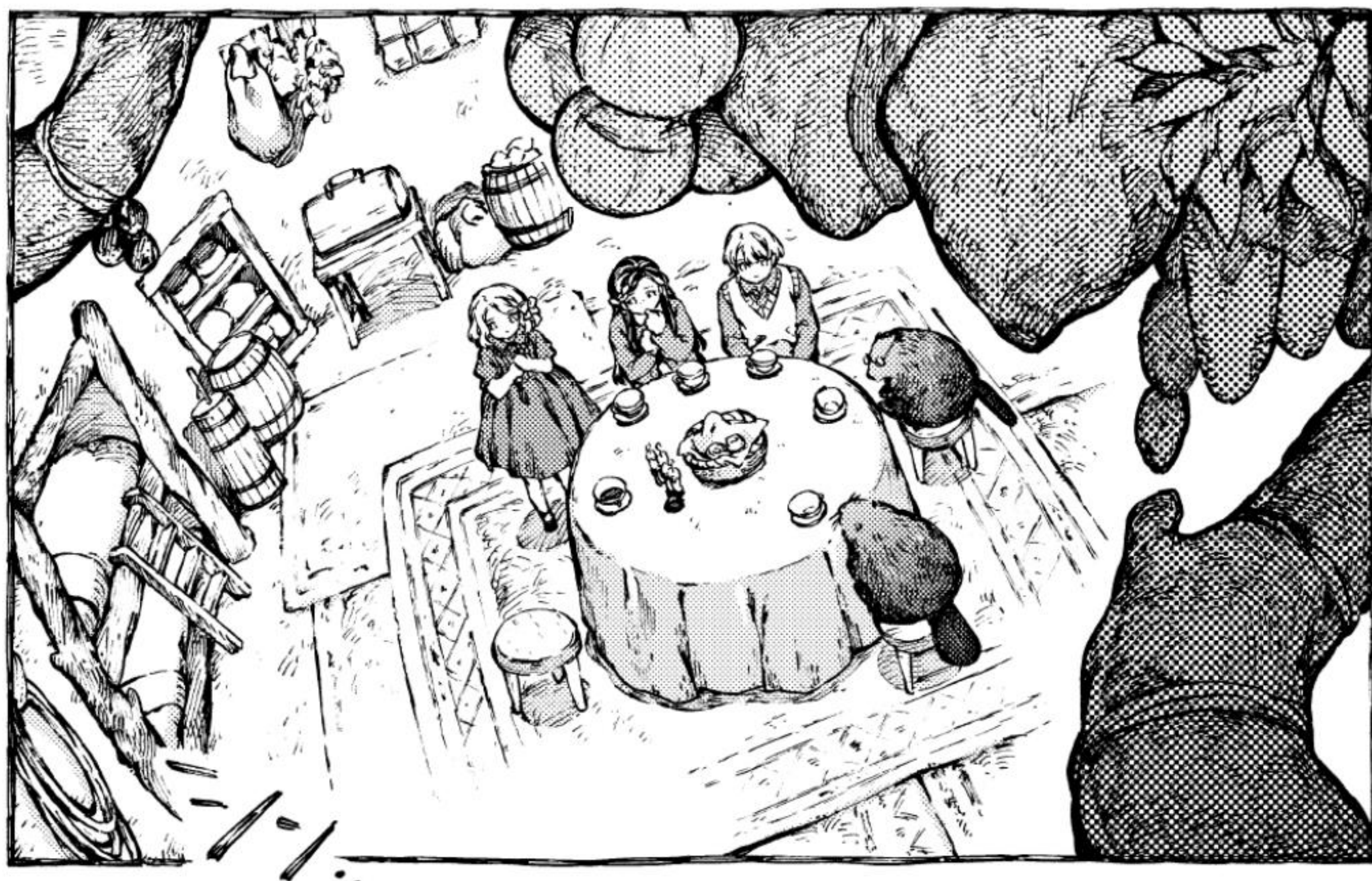
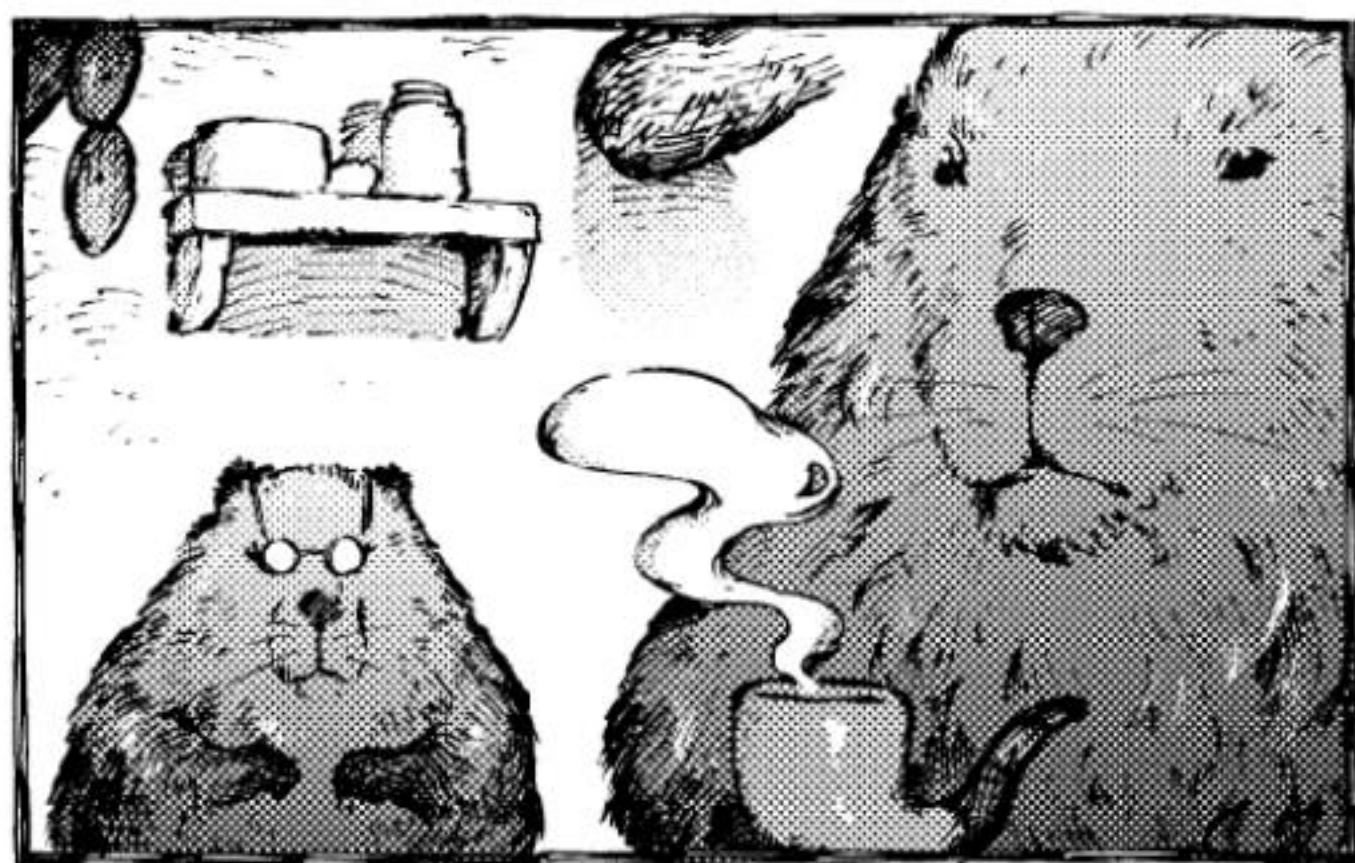
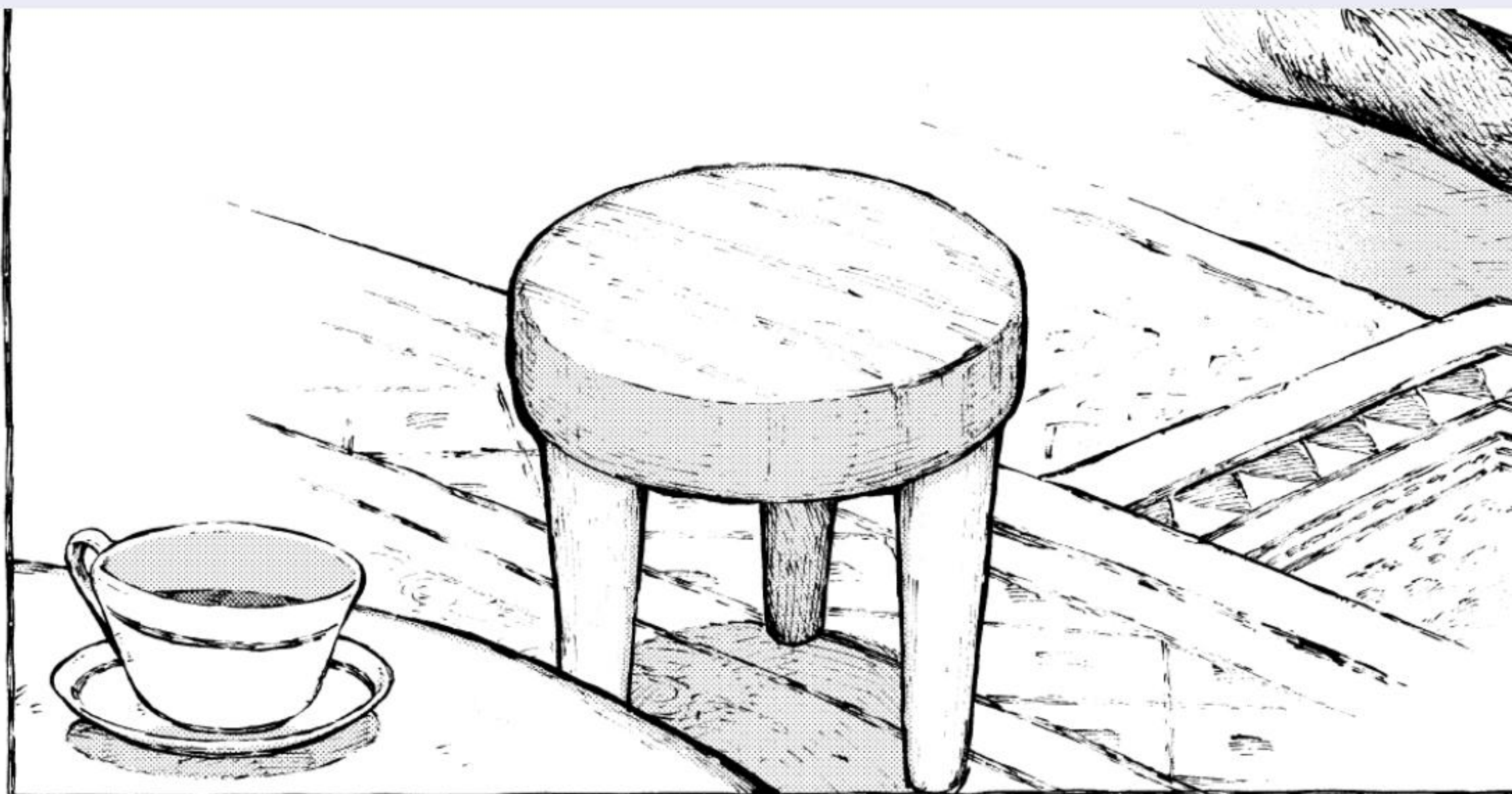
土屋京子・訳

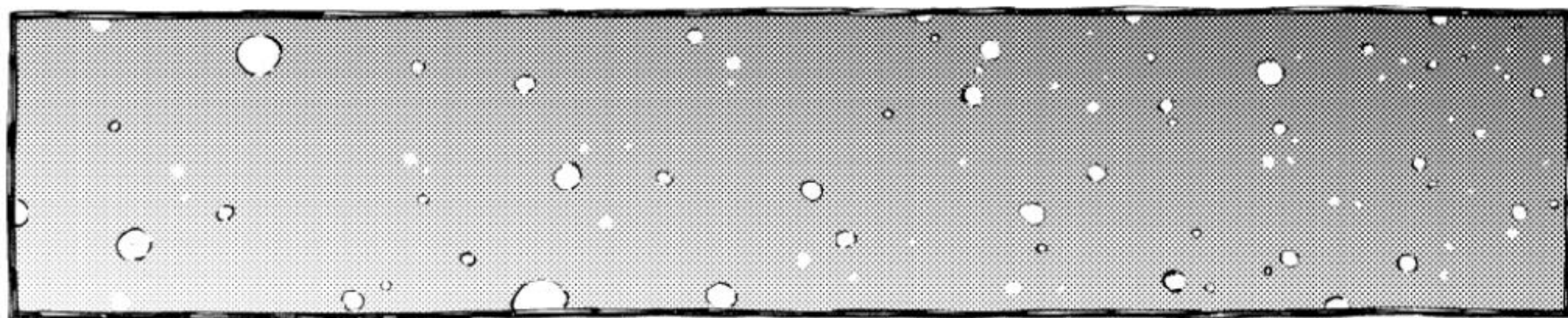
玉樹庵・画

(光文社古典新訳文庫刊)



第15話 昼食のあとで起こったこと(後編)







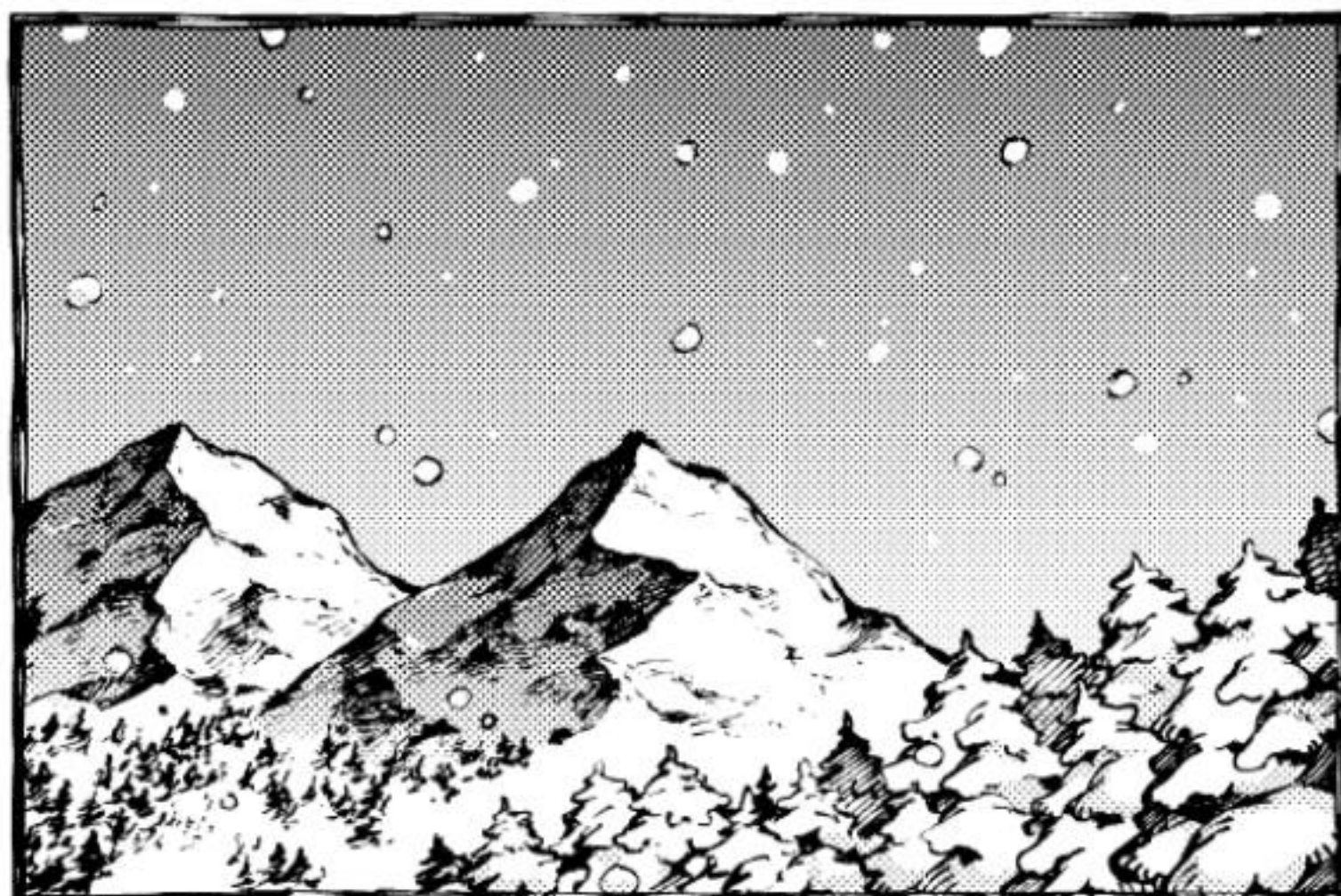
ヒドムズブー!

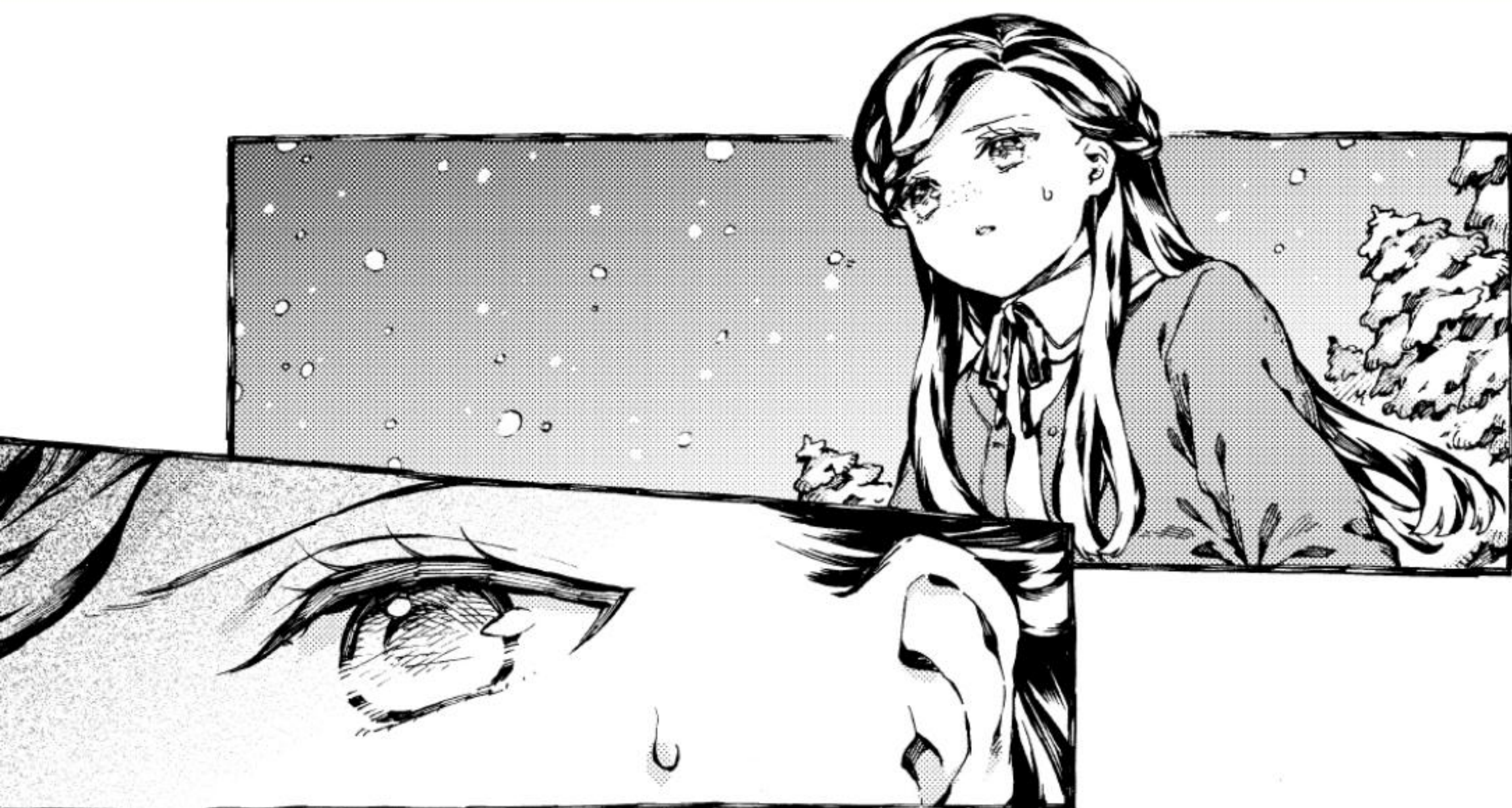


ヒドムズブー!

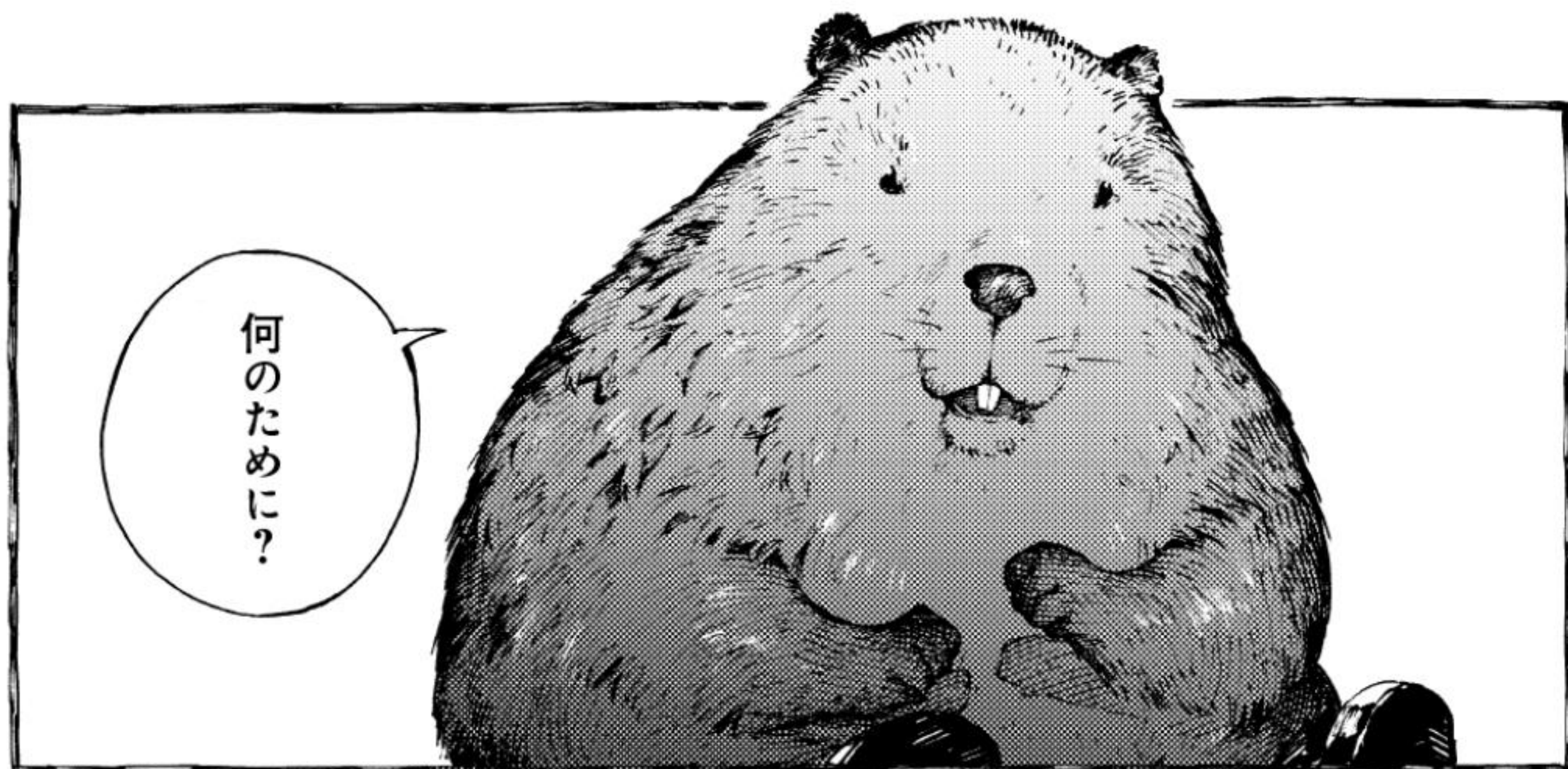


ヒドムズブー!











探しても
むだだと
言うのは



もう行き先が
わかってるから
ですよ！

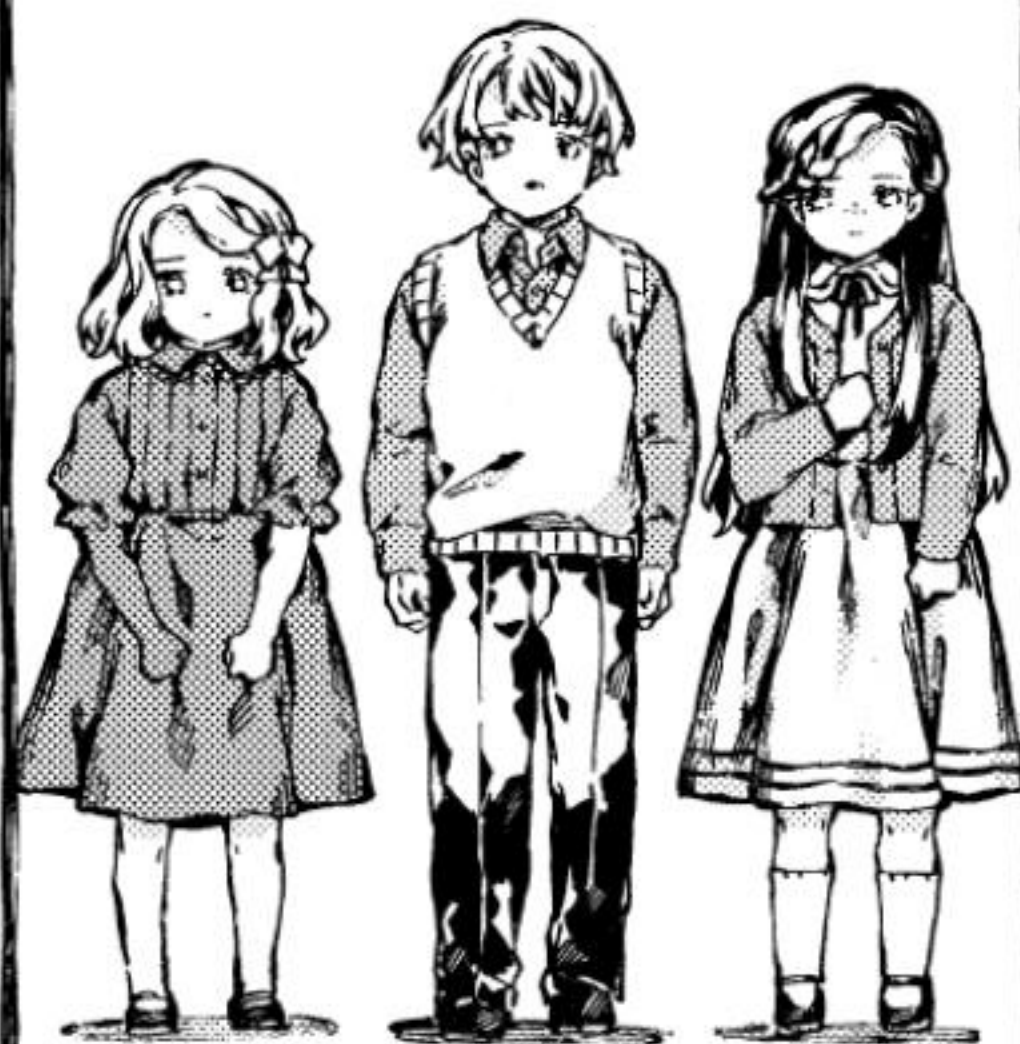
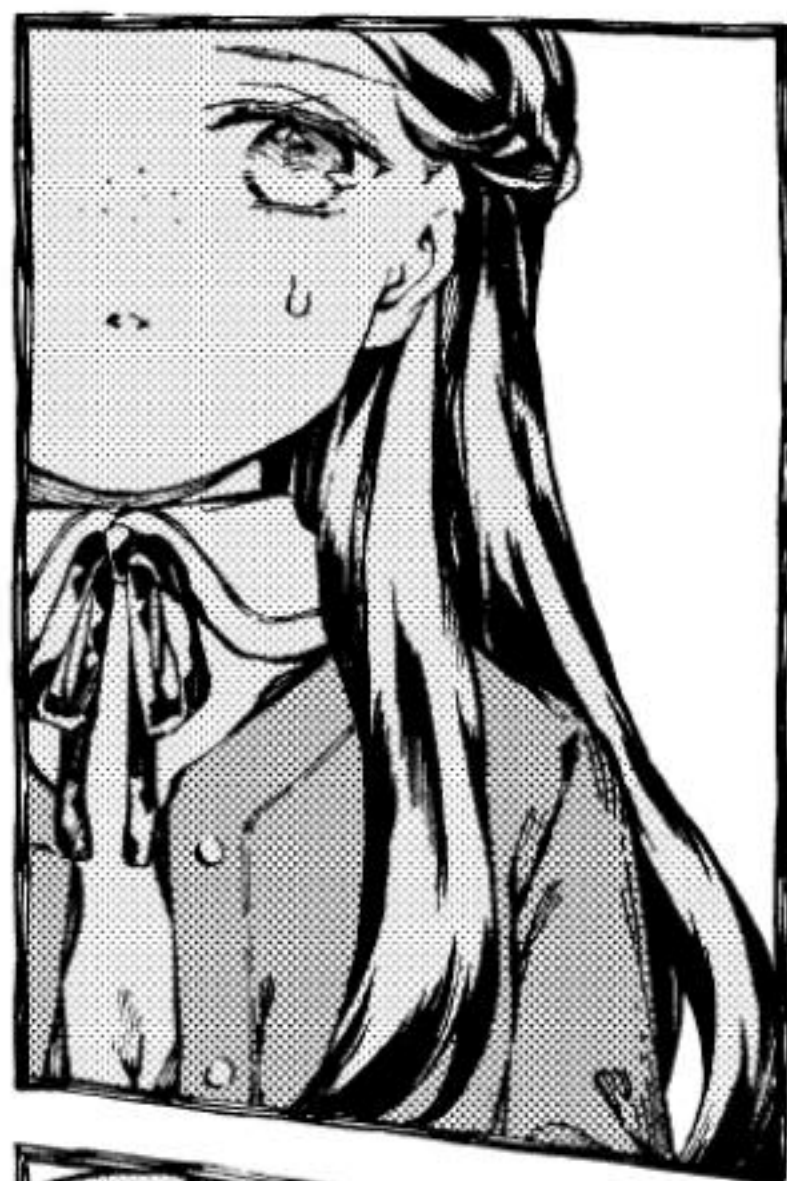
わからないん
ですか？

あの女の
ところへ
行ったの
ですよ

白い魔女の
ところへ

あの子は
わたしたちを
裏切ったのです





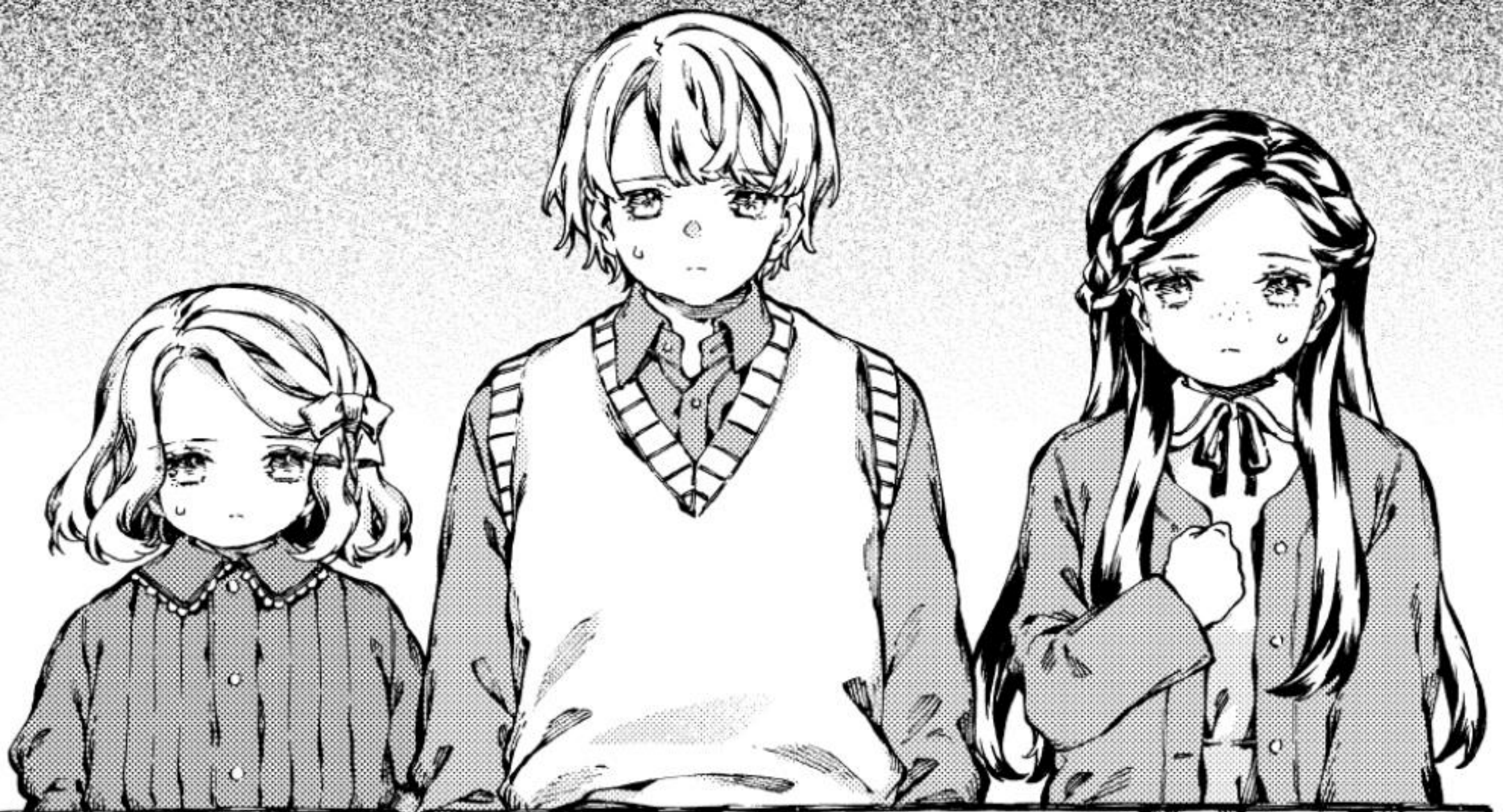
うそでしょ！
ありえない！

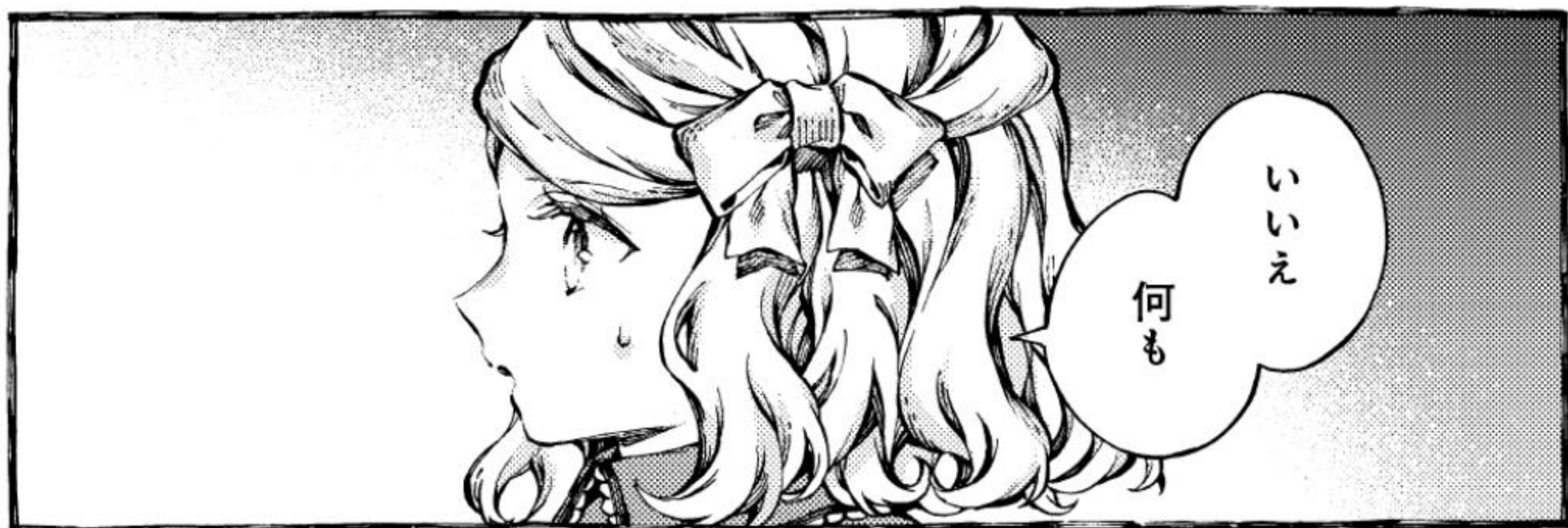


そんなこと

するはずが
ないわ









エドマンドは
すでに
白い魔女に会って

そして

魔女が
どこに住んでいるか
聞いていたのです

魔女の側に
ついたのです



魔女と会って
魔女の食べ物
口にした者であると
顔に書いて
ありましたからね



『あこの子は
裏切るぞ』と
わかりました



これまでは
遠慮して
黙っていました
が
あなたがたの
きょうだいでも
あるし

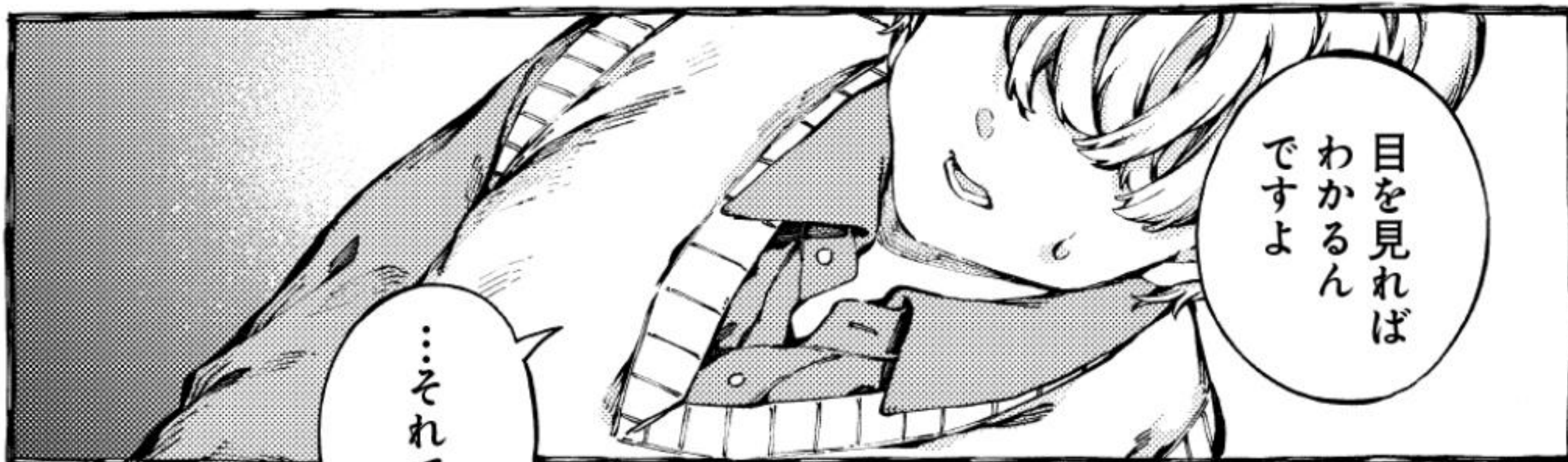


わたしは
あの子を見た
瞬間に



ナルニアに
長く
住んでいると

そういうことが
わかるように
なるんです



目を見れば
わかるん
ですよ

…それでも

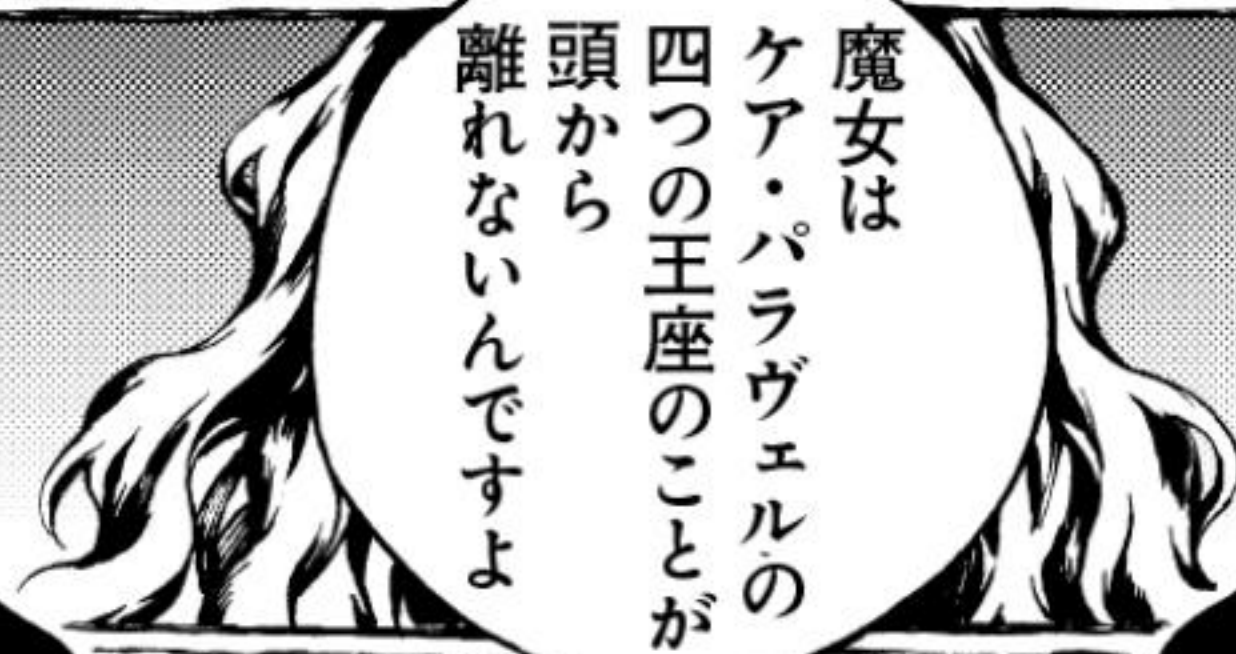


どういう
意味って

魔女が
もくろんで
いるのは
あなたがた
四人全員を
つかまえること
だからです



魔女は
ケア・パラヴェルの
四つの王座のことが
頭から
離れないんですよ



あなたがた四人を
館に閉じこめて
しまおうというのが

魔女の
狙いです

それこそ

あつという間もなしに
魔女の館に
あなたがた四人の
新しい石像ができて



それで
おしまいですよ

けれど

自分の手もとに
エドマンド一人しか
いないかぎり

魔女は
エドマンドを
生かしておく
でしょう

おとりとして
使うためにね



エドマンドを
使って

あなたたち三人を
おびきよせようと
いうわけですよ

わたしたちは
アスランに
会いにいかなくては
なりません

誰も
わたしたちを
助けてくれる人は
いないの？

…ああ

それが
できるのは
アスラン
だけです

ねえ
みなさん

それしか
チャンスは
ないのです



あの子が魔女に
どれだけ
こちらの手の内を
伝えられるかは

話をどこまで
聞いていたかに
よりますからね



エドマンドが

いつ
いなくなつたかを
はつきりさせて
おくことが
大切だと
思うんですよ



たとえば

ですよ

わたしたちが
アスランの話を
はじめたとき

あの子は
まだここに
いたかしら？

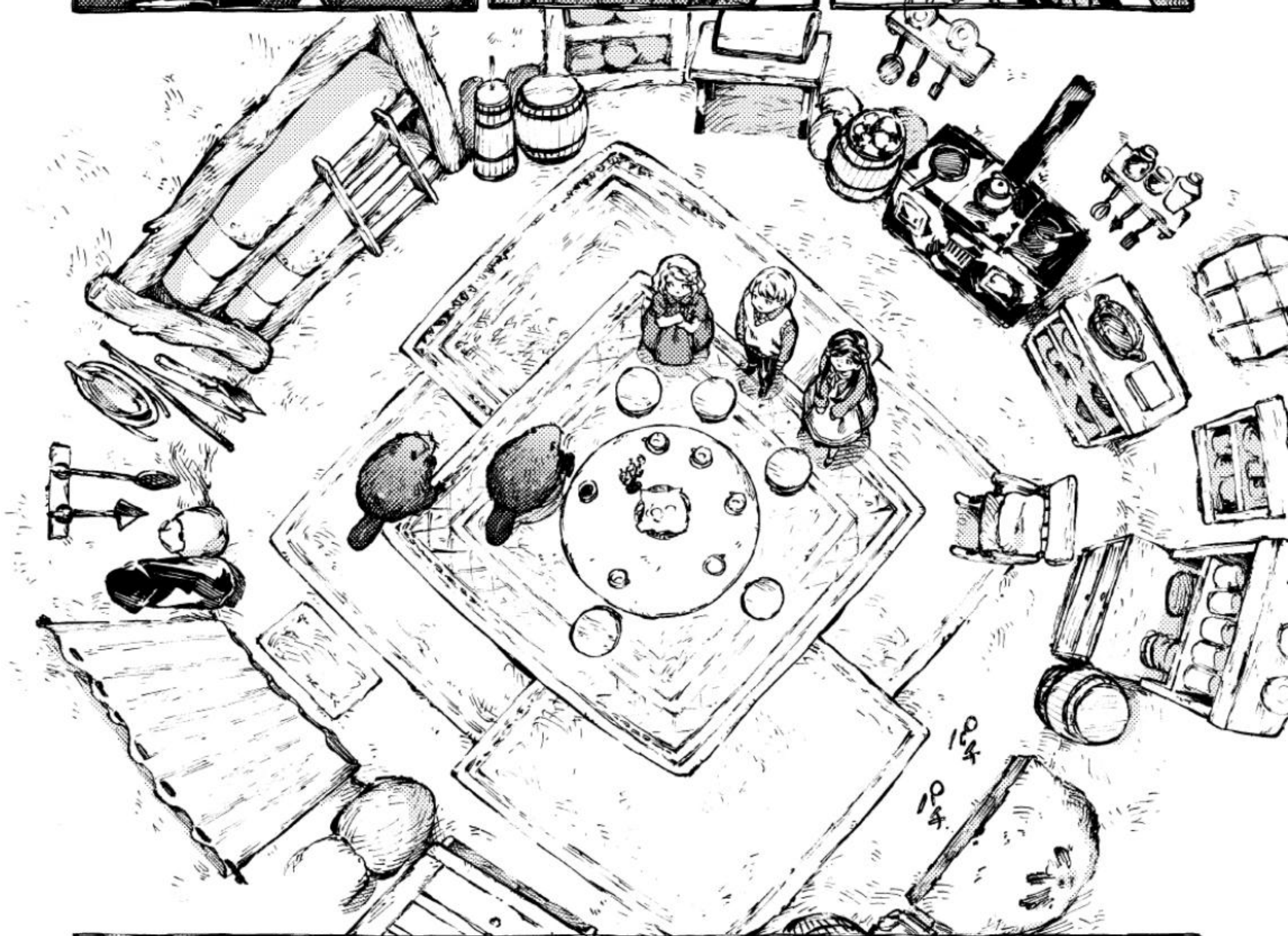
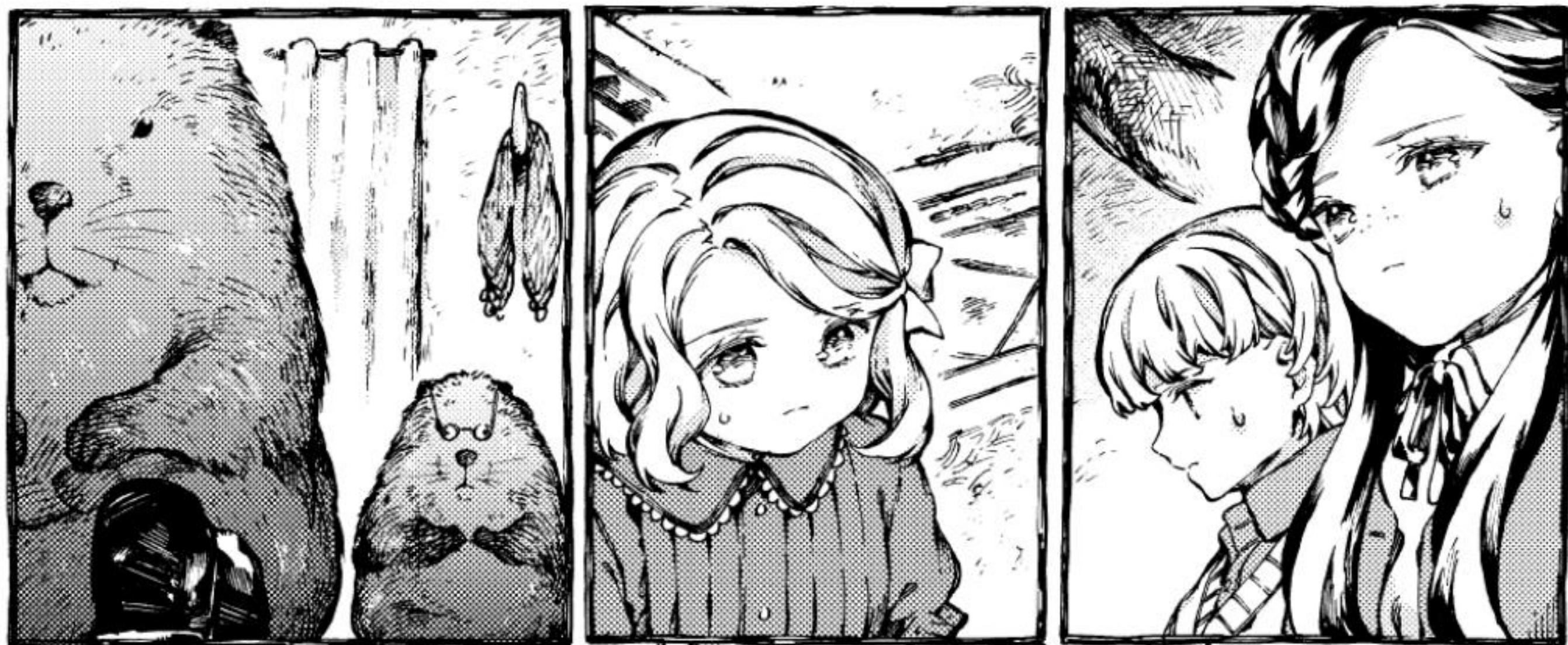


もし
いなければ

形勢は
こちらにかなり
有利になります









魔女は
「石舞台」の方向へ
そりを走らせて

われわれと
「石舞台」のあいだに
割ってはいり

下流へ向かう
われわれを
つかまえようと
するでしょう

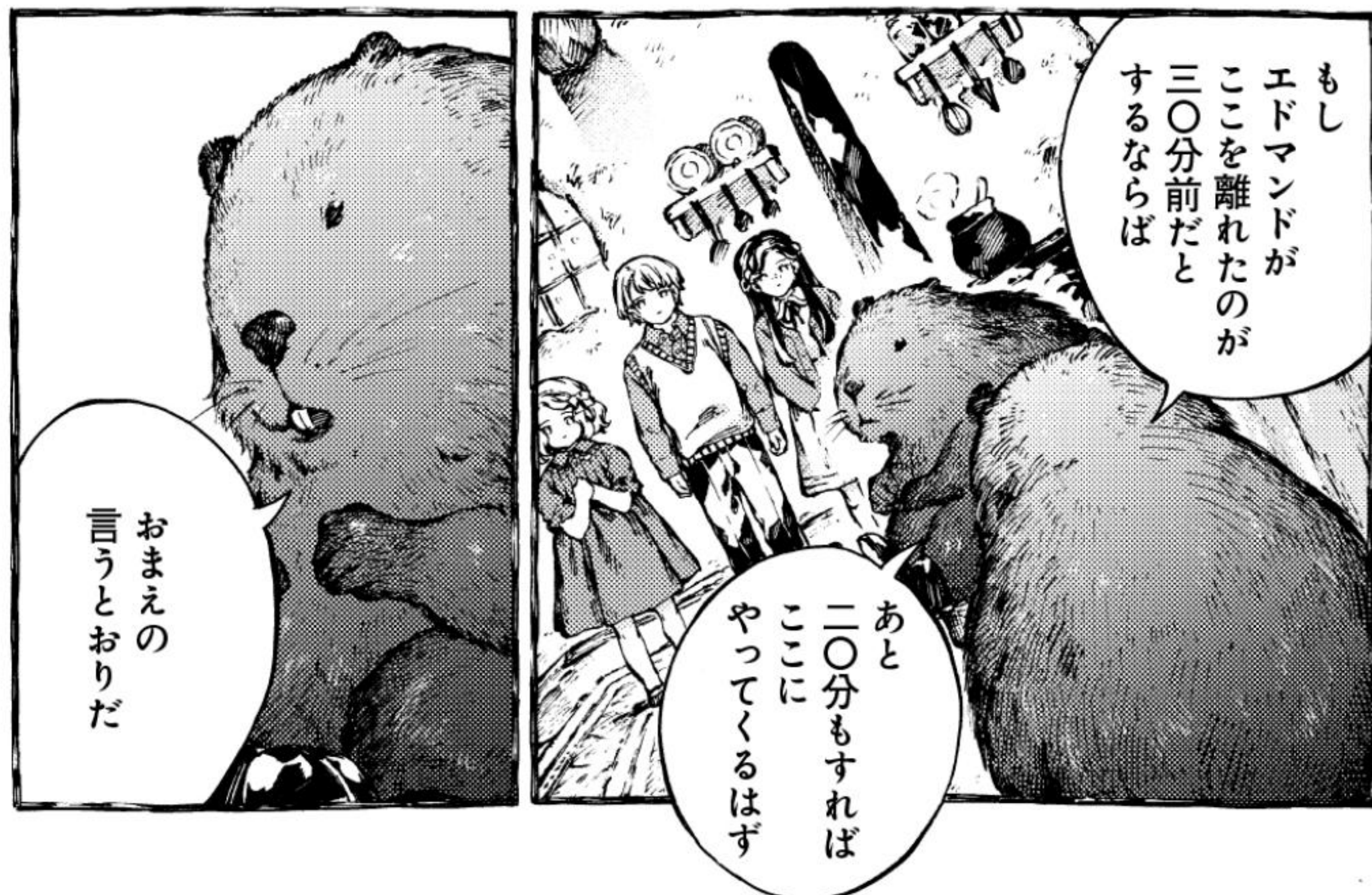
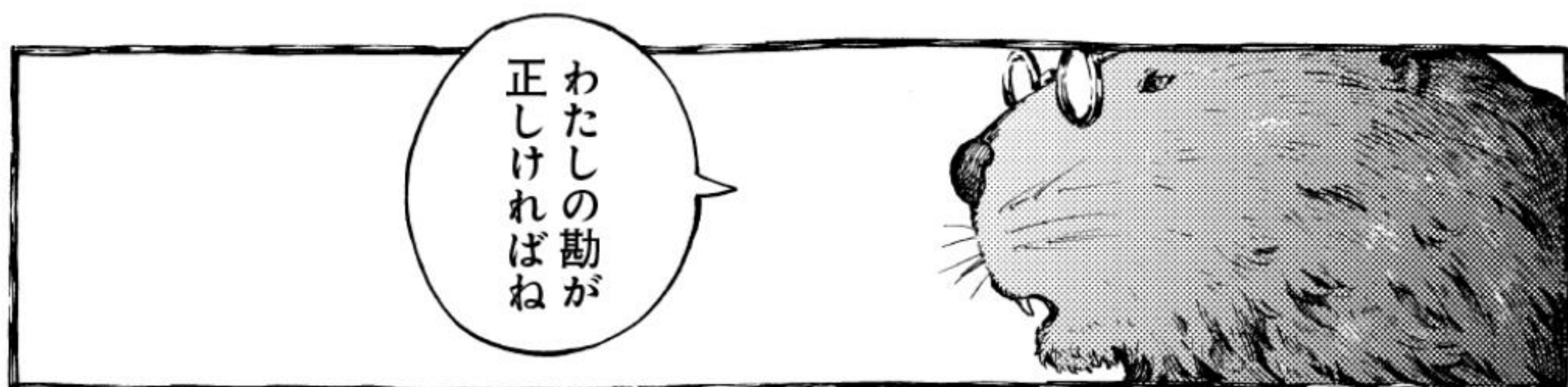


われわれは
アスランから
切り離されて
しまうことにな
ります



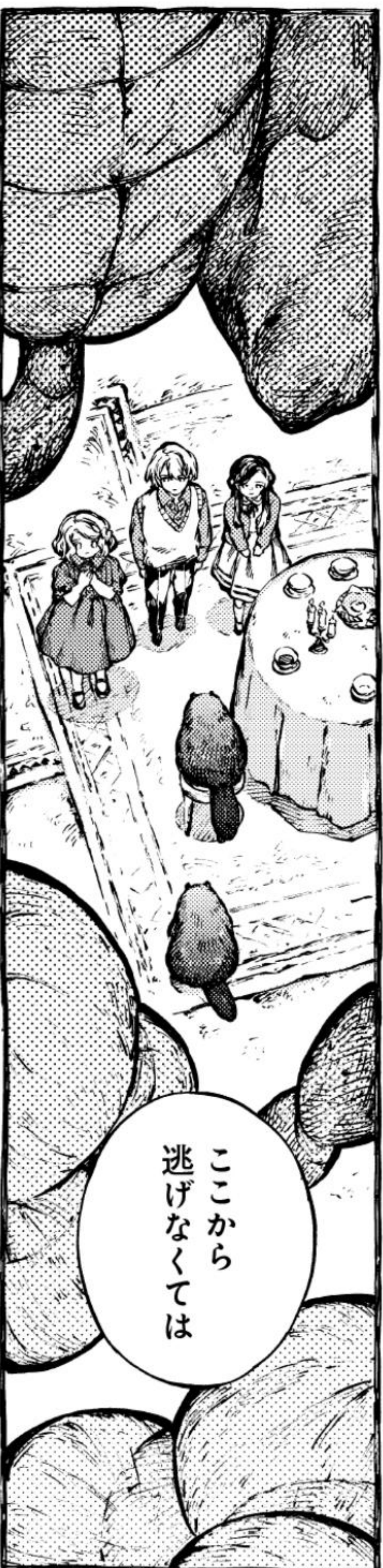
でも
白い魔女が
最初に
ねらうのは

そっちでは
ないと
思いますよ





ぐずぐずしている
暇はないぞ



ここから
逃げなくては